

一農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する手法 GAP一**日本 GAP 協会 台湾事務所 設立のお知らせ**

日本 GAP 協会（理事長：木内博一）は、2014 年 3 月 10 日に台湾事務所を設立することをご報告申し上げます。

■日本 GAP 協会 台湾事務所 概要

住所：台湾・台中市大肚区中和里南栄路 101 号 興農股份有限公司／玉美生物科技研究公司

機能：連絡事務所（Liaison Office） 中国語 日本語 英語による対応可

日本 GAP 協会の基本政策文書である「理事会宣言 2012」において、「日本に続き、東アジア・東南アジアのマーケットでも JGAP の認知を高め、日本産農産物のブランド力を高める一助となる」ことを定めており、その一環としてこのたびの台湾事務所の設置となりました。

日本の主要な農産物輸出先である台湾（第 1 位 17.9% 2012 年確定値）では、日本産農産物の需要が更に高まることが期待されており、特に JGAP 認証農場からの輸入を希望する台湾流通企業も出てきております。また、日本の農業者が台湾で農業を始める事例や技術指導する事例も増えており、JGAP 認証取得に動き出している台湾の農場も出てきています。

台湾における JGAP の認知向上・普及は、日本産農産物の輸出促進や、日本の農業者が台湾で活躍する一助となります。台湾のような日本産農産物の主要な輸出先では、海外の GAP 認証ではなく、日本の GAP 認証や農場管理がそのまま評価される方が日本の農業者にとってはメリットが多くあります。

JGAP 中国語版の正式発行も近日中に予定されており、日台間の相互理解の向上に貢献できると期待されています。

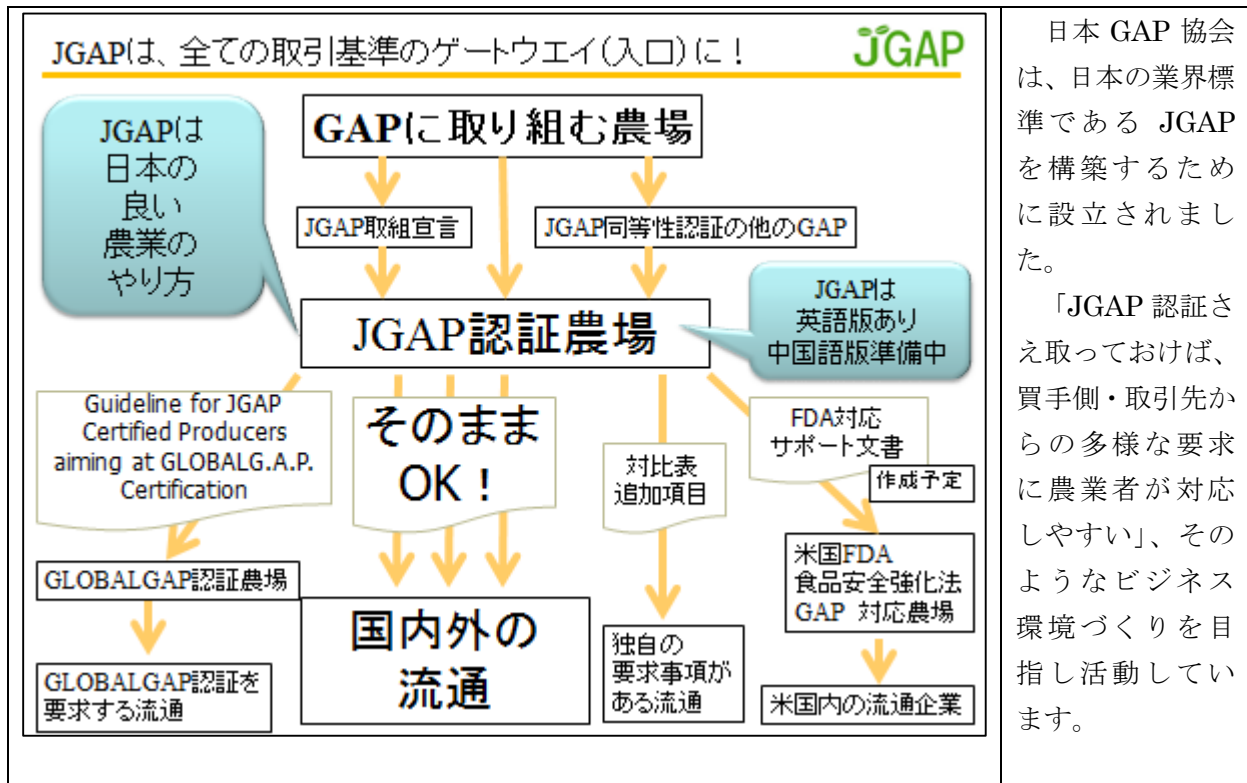
問合せ先：横溝 TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: info@jgap.jp

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAX または E-mail で送付ください。）

御社名 _____ 部署名 _____ 御名前 _____

住所 _____ 電話番号 _____

■JGAP の戦略 について



日本 GAP 協会は、日本の業界標準である JGAP を構築するために設立されました。

「JGAP 認証さえ取っておけば、買手側・取引先からの多様な要求に農業者が対応しやすい」、そのようなビジネス環境づくりを目指し活動しています。

JGAP の指導者は日本・韓国・タイ・台湾に 4,000 名以上あり（都道府県の普及指導員、JA 職員、肥料商など）、農場・産地が取り組みやすい環境づくりがされています。日本産農産物の主要輸出先である台湾や香港では、JGAP 認証がそのまま通用する輸出環境を作るべく、普及を開始しています。GLOBALG.A.P.認証や米国 FDA-GAP を要求するバイヤーに対しては、JGAP 認証農場であれば GLOBALG.A.P.発行のガイドラインやサポート文書を用いて迅速に対応できるよう環境整備をしています。

■日本 GAP 協会の基本政策文書「理事会宣言 2012」

ホームページで公開しています。



http://jgap.jp/JGAP_Assoc/rijikai_sengen2012.pdf

■台湾について

人口：2,330 万人（日本の東京都と神奈川県の人口の合計と同程度）

面積：3 万 6,000 平方 km（日本の九州と同程度）

日本から輸出されている主要な農産物と金額（2012 年） 合計 481 億円

りんご 27 億円、ながいも 11 億円、なし 3 億 4 千万円、もも 1 億 8 千万円、米 5 千万円、いちご 4 千万円 等、その他たばこやアルコール等も多い。